

## グローバル人材育成プログラム に参加して

符 川 明日香

Asuka FUKAWA

電子情報学科 3年

### 1. はじめに

私は、8月13日から8月31日までの約20日間、アメリカのカリフォルニア州、サンフランシスコおよびサンノゼでのグローバル人材育成プログラムに参加しました。最初の3日間はサンフランシスコとシリコンバレーを移動しながら、企業訪問と、シリコンバレーで活躍されている日本人の方によるグローバルキャリアセミナーを行いました。そして、残り約2週間は、ホームステイとともに、Devicenet USA, Inc. という企業で実習をさせていただきました。

### 2. 目的

私がこのプログラムに参加した理由の一つに、父の存在があります。私の父は、私が幼いころからよく出張で海外を飛び回って仕事をしていました。その背中を見て、いつしか、私も同じように世界で活躍できるような社会人になりたいと考えるようになりました。そのためには、一度は海外へ足を運び、実際に働いてみることで自分には何が足りないのかを見極め、今後、どのようにしてそれを埋めていくのかを考える必要があると思いました。本プログラムに参加することで、それができると考えました。

もうひとつの理由は、本プログラムでは異文化圏の方との適切なコミュニケーションの取り方を学べるのではないかと考えたからです。普段、大学内の講義を受けるだけでは学べない、考え方や文化、価値観の違いを、本プログラムであれば体験できると考えました。



図1 実習で構築したネットワーク

### 3. 企業について

Devicenet USA, Inc. は、電子部品、電子機器の製造販売及び輸出入業務を行っているミカサ商事の子会社です。業務内容はシステムインテグレーションサービス、WEBホスティングサービス、ソフトウェア・ハードウェア販売、テクニカルサポートサービスなどです。1997年より業務を開始し、現在は法人向けにサービスを行っています。

### 4. 実習内容

私が行った実習は、主にネットワークの構築であり、ひとつは、電話用のサーバーのアップデートをするために、実際のネットワークと同じようなネットワークを構築する、というものでした(図1)。新旧サーバーと電話を繋いだのち、インターネットに接続できるようにしました。その後、新サーバーに不要なプログラムが入っていたため、アンインストールを行いました。作業を行う前に、どういう依頼でどういう作業を行うのか、どのような仕組みでネットワークを作ればよいのかななどを丁寧に説明していただいたので、すんなりと作業を行うことができました。

もうひとつのネットワークは練習用として、図のように2台のコンピュータ同士を繋げ、ひとつはサーバー用に、もうひとつは、私たちが普段利用しているようなクライアント用としてOSのアップデー

ト、インストール、およびネットワーク構築を行いました。そして、サーバー用のコンピュータが実際に動作するかのチェックを行いました。この作業は、実際にどうすればいいのか自分で調べて、わからなければ社員の方に随時質問しながら行いました。

仕事をする上で、報告・連絡・相談が大事だといわれていますが、実習中に質問を繰り返すことで、その大事さを実感できました。

## 5. 実習を終えて

将来、海外で働くには外国語能力が必須であると痛感しました。私の実習先はアメリカ人のほかに中国人の方もいらっしゃいました。その方は、たまたま日本語も話せる方だったので意思疎通ができましたが、そうでなかった場合、うまくコミュニケーションがとれたかどうかわかりません。また、私が働いていたサンノゼ周辺はスペイン語のほうが得意な方も多く、そう考えると、英語はもちろん、他の言語についても積極的に取り組む必要があると感じました。また、異文化圏の方とコミュニケーションを取る際に一番必要なのは、交流しようとする意思であり、実際に英単語力がどれほどあるか、TOEICテストの点数の高さは、影響が少ないと考えました。もちろん、英単語力があれば自信がついて話しやすいはなるでしょう。しかし、話しかけようとする意思がなければ、それは何の意味もありません。コミュニケーションを取ることができたという自信が、さらに先へとつながっていくと感じました。そのために、学会参加時などに、いろいろな方と積極的にコミュニケーションをとっていかうと考えました。

また今回のプログラムで、働くということに対し

て自分自身がいかに考えてこなかったかを痛感しました。今回のプログラムで行った企業での実習に関する知識は身につけているつもりでしたが、実際に装置などを動かした経験がなかったため、実習先の方に丁寧に説明していただくことで、動作の仕組みなどを理解することができました。そのとき、自分自身がこれまで学んできたことが、実社会の現場でどのように役立てられているかを、今まで考えてこなかったことに気づかされました。大学での学習においても、実社会を見据えながら学ぶことで、社会に出て働く際に役に立つ知識や技術を身に付けることができると考えるようになりました。普段の講義においても、学習の内容のみならず、それが産業の現場でどのように役立てられているのかを紹介していただくことが多いように思います。ただ、講義を聞くだけでなく、自らが学習の内容と実社会との関係について関心や疑問をもち、自学習する必要性を感じました。

外国語を使ったコミュニケーション能力を身につけることや、働くということに向き合い、普段から物事に関心を持って行動していくことは、自らが積極的に取り組むことによって成り立つものではないでしょうか。積極性を持ち、自分自身が知らないことに対して能動的に行動していくことが、今の自分自身には足りないことだと考えました。何も考えずに与えられた課題をこなすだけの学生生活を送るのではなく、自ら意思をもって行動していくことで、社会に出たときに求められる能力を身に付け、それを磨くことができると考えます。

今回のプログラムでは貴重な経験をさせていただくことができました。その経験を踏まえ、今後にかかしていけるように努力していきたいと思えます。